

年間授業計画

上水 高等学校 令和6年度（2年次用） 教科 公民 科目 公共

教科 公民 科目 公共 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 年次 A 組～ F 組

使用教科書：（『高等学校 公共』（第一学習社））

教科 公民 の目標：

【知識及び技能】 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	オリエンテーション						1
	第1章 公共的な空間をつくる私たち 社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。	・指導事項 ・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きる私たちは、何を考え行動すればよいかを理解させる。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして、個人として尊重されることや、対話を通して他者を理解することを学ばせる。 ・伝統や文化と、自らの行動様式や考え方との関係について理解させる。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考えさせる。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・人生の中で青年期はどのような意味をもつか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	4
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をともに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。 ・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

1 学 期	主題1 法や規範の意義と役割 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。	・法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考える。 ・安全で豊かに生き、法をよりよいものにするための権利や、それを実現するための法・規範を理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。 ・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけではなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解している。 ・基本的な権利が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福、正義、公正などに着目して考えている。 ・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	4
	主題2 契約と消費者の権利・責任 契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。	・なぜ契約が生まれ、契約を守ることが大切なのかを理解する。 ・消費者と事業者を対等な立場に置き、消費者主権を実現するために、消費者に関する法律が定められていることを理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・成年年齢が18歳以上となったことに對し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。 ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。	○	○	○	5
	主題3 司法参加の意義 1裁判所と人権保障 個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。	・個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。 ・なぜ裁判所が必要なのか、司法権の独立や裁判所のしくみ、最高裁判所の違憲審査権から理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	主題4 政治参加と公正な世論形成 民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。	・民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・選挙の意義や課題、世論の形成や政党の役割を理解する。 ・主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・地域社会の課題に、私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。 ・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	5
	主題5 国際社会と国家主権 主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。	・主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。 ・領土問題の背景と現状を理解する。 ・国際社会の平和と安定を維持するための国際連合の取り組みを理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	5

主題6 日本の安全保障と防衛 日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。	・日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちに何が必要かを考える。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。 ・日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○		1
主題7 国際社会の変化と日本の役割 国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。	・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景、現状を理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題にする資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。 ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。 ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。 ・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	5
主題8 雇用と労働問題 少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。	・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるために必要なことを理解する。 ・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解する。 ・労働者を守るための法や権利を理解する。 ・労働問題やその背景にある社会の変化を理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。 ・雇用と労働問題について、日本的雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	○	○	○	5
主題9 社会の変化と職業観 グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。	・グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけばよいかを学ぶ。 ・第二次世界大戦後から現代までの日本経済のあゆみと、現代の経済の課題を理解する。 ・情報化の進展が日本経済や中小企業・農林水産業の課題の解決にどのようにはたらいているかを理解する。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の諸課題を理解している。 ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・農林水産業の現状と今後について、さまざまな情報を基に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○		1

3 学 期	主題10 市場経済の機能と限界 公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。	・公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・経済における政府の関わり方について、どのような考えがあるのかを理解する。 ・市場における需要と供給の関係について理解する。 ・市場の失敗の例の一つである公害について、その種類や対策の取り組みを理解する。 ・国民所得や景気変動を理解し、私たちが豊かに暮らすための指標について考える。 ・教材：教科書 等 ・一人1台端末の活用 等	・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。 ・価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。 ・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	10
	主題11 金融のはたらき 経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。	・経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。 ・中央銀行は日本経済の状況に応じて、どのような金融政策をとっているのかを理解する。 ・社会の変化が、金融にどのような影響を与えているのかを理解する。 ・投資の意義や投資に必要な考え方を理解する。	・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							78